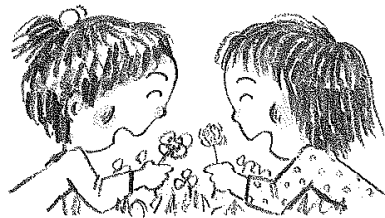


分 科 会 13:20 ~ 16:15

※注 各分科会のテーマの下にある「※カリキュラム〇年次〇課」は、埼玉県学童保育連絡協議会が作成した「学童保育指導員研修カリキュラム」の科目に対応しています。



学童保育入門

(_)今年、保護者・指導員となられた方へお勧めです

1. 基礎講座 もっと知りたい学童保育の大事さ・魅力 ～お父さん・お母さんのための分科会です～

【講 師】長倉香（県連協会長、保護者） 田島千春（上尾市指導員）
学童保育（放課後児童クラブ）の毎日には、いろいろな場面があります。時間を忘れて遊びに夢中になったり、友だちとケンカをしたり、時には指導員に叱られたり…。この分科会は、主に新しい保護者を対象としています。先輩の保護者とベテラン指導員（放課後児童支援員）から学童保育の魅力を語っていただき、参加者と一緒に交流します。

生活づくりを豊かに

(_)“指導員力”をもっともっとつきたい方へお勧めです

2. 学童保育の生活づくり（保育）ここを大切に

※カリキュラム1年次 1-（1）課、2～3年次 3-（1）課

【講 師】菊地妙子（川越市大東東学童保育室指導員）
学童保育は、共働きやひとり親家庭の親の労働を保障し、その子どもたちの放課後（学校休業日は一日）の生活を守る場です。指導員は、日々の子どもたちの生活をつくることを通して働く親を支えています。この分科会では、学童保育の役割、指導員の仕事と役割、生活づくりをどう進めていくかについて学びます。

※参考図書 「テキスト学童保育指導員の仕事」（全国学童保育連絡協議会）

3. 一緒に子育て 学童保育

～保護者と指導員で伝え合う子どものこと～

※カリキュラム1年次 1-（1）課、2～3年次 3-（1）課

【講 師】寺澤 香（草加市西町児童クラブ（クラゲ）指導員）
子育て情報は巷にあふれていますが、子育てはマニュアル通りにはいかないもの。「自分を出せる」学童保育の場で子どもたちは素顔をあらわしています。子どものことは指導員（放課後児童支援員）に聞きましょう。指導員はもっと親に伝えましょう。親同士ももっと仲良くなりたいたいものです。そんな関係の大切さ、どうしたらそんな関係をつくっていきけるのかを学びましょう。また、保護者会を通じての伝え合いの大事さも学びます。

4. “高学年”分科会

～初めて4～6年生を受け入れる指導員さん、集まれ！～

※カリキュラム2～3年次 3-（4）課

【講 師】中野実雄（さいたま市宮原小学学童保育はちのすクラブ指導員）
法律が改正されて学童保育の対象児童が6年生まで拡大されました。高学年は思春期前期、低学年とは発達段階も異なり、指導員の対応に難しさもあります。受け入れ経験のない指導員から「対応できない」「高学年のイメージが湧かない」の率直な声が届いています。“高学年保育初体験”の指導員集まれ！一緒に考えましょう。

5. 子どもの権利と指導員の倫理を学ぶ

※カリキュラム1年次 1-（3）課

【講 師】浅井春夫（立教大学コミュニティ福祉学部教授）
「放課後児童クラブ運営指針」には、「放課後児童支援員は、豊かな人間性と倫理観を備え、常に自己研鑽に励みながら必要な知識及び技能をもって育成支援に当たる役割を担う」と規定されました。子どもを権利主体として尊重することの大事さ、指導員に求められる倫理・モラルについて学びます。

子どもの見方を深める

(_)子どもの育ちを見る目・関わる力をもっとつきたい方へお勧めです

6. “子どもが育つ”ってどういうこと？

～子どもの発達のしくみと子どもへのはたらきかけを学ぶ～

※カリキュラム1年次 2-（1）課

【講 師】高橋浩平（東京都杉並区立杉並第四小学校校長）
「言葉が通じない」「ささいなことですぐキレる」など、子どもたちの実態にとまどうことが増えています。いま、様々な要因から子どもの育ちそびれが懸念されています。指導員（放課後児童支援員）は、子どもの発達段階を踏まえた働きかけをしていくことが大事になります。そのためには、子どもの心と身体の成長について正しい知識を持つことが欠かせません。高橋先生と一緒に考えます。

7. 「いじめ」の問題を考える

※カリキュラム2～3年次 2-（1）（2）課

【講 師】馬場久志（埼玉大学教育学部教授）
子どもの「いじめ」が大きな社会問題となっています。学童保育においても年齢の差がそのまま力関係になって表れることもあります。いじめはいけないことですが、「何故起こるのか？いじめてしまう子どもの心に何が起きているのか？」を深めることなしには、対応は見えてきません。いじめの問題をどう考えるのか？ どう向き合えばよいかを馬場先生と一緒に考えます。

8. 荒れる・キレる 攻撃的な子や生きづらさを抱える子どもをどう見るか、どう支えるか？

※カリキュラム2～3年次 2-（1）（2）課

【講 師】山崎隆夫（都留文科大学講師、元東京都公立小学校教諭）
「うざい！死ぬ！消えろ！」言葉が荒い。すぐにキレる、手も出る。でも、家庭では別な顔も見せ「良い子」らしい？…「仲良し」を装わないといけない友だち関係。攻撃的な子、生きづらさを抱えている子どもたちどう向き合えばよいかを山崎先生と一緒に考えます。

9. 子どもの育ちを学校・家庭・学童保育と共同で支えるために ～学童保育と学校とのつながり・関わりを考える～

※カリキュラム2～3年次 2-（1）課

【講 師】渡辺恵津子（大東文化大学文学部准教授）
「運営指針」は、「子どもの生活の連続性を保障するために、情報交換や情報共有、職員同士の交流等によって学校との連携を積極的に図る」と記しています。子ども理解の前提として学校・教師と家庭との連携は不可欠です。しかし、学童保育への理解や教師の多忙さなどから十分に連携をとることが難しい実態もあります。学校との関係づくりをどう進めていくかを考えます。

10. 子どもの貧困・児童虐待の問題を考える

※カリキュラム 1年次 2- (1) (2) 課

【講師】下浦忠治（東京成徳大学子ども学部講師）

子どもの相対的貧困率は上昇傾向で今や、6人に1人。1人親家庭は、特に経済的に困窮しています。家庭環境の厳しさの中で、子どもに対して関心が向かずやむなく「虐待」をしてしまう事態も生まれています。下浦さんと一緒に考えます。

11. 大人に見えない子どもの世界

～ 大丈夫？ネット世界の子どもたち ～

※カリキュラム 1年次 2- (1) (2) 課

【講師】成田弘子（白梅学園大学子ども学部教授）

小学3年生以上の過半数が家庭で週1～2回以上インターネットを利用しているという調査結果もあります。子どもたちはネット・スマホという情報環境の中で「人間関係」をつくり出しています。便利さの反面、ネット犯罪に巻き込まれないか等、親としては心配もあります。どう付き合わせていくかを考えましょう。

12. “女の子の問題”を考える

※カリキュラム 1年次 2- (1) (2) 課

【講師】金子由美子（川口市公立中学校養護教諭）

女の子の扱いが年々、難しくなっているように感じられます。一人ひとりとはそうでなくても、一度「群れる」とお互いを牽制し合って、大人（親や指導員）に立ち向かってくる。また特に、男性指導員への評価が著しく厳しいことも指摘されています。イマドキの女の子の問題、扱い方のポイント？を養護教諭の金子先生と一緒に考えます

13. 食物アレルギーを考える

※カリキュラム 1年次 2- (1) 課

【講師】井上久美子（十文字学園女子大学人間生活学部准教授）

食物アレルギーの子どもが目立つようです。意識を失ったり呼吸困難に陥るなど命にかかわる症状を起こすこともあります。学童保育でもおやつや長期休みの昼食づくりなどで気を付けなくてはなりません。アレルギーを引き起こす原因は？家庭で、学童保育でどういうことに留意すればよい？適切な食物除去の方法は？専門家と一緒に考えます。

障害児の理解を深める

(一) 障害のある子どもの育ちと支援を理解したい方へお勧めです

14. しょうがいのある子どもの発達を保障するために

※カリキュラム 2～3年次 2- (2) 課

【講師】近藤直子（あいち障害者センター理事長）

学童保育における障害児の受け入れは進んでいますが、障害児についての理解や指導員としての支援の内容は十分でない地域も見受けられます。障害があっても、適切なはたらきかけによって子どもは育っていきます。障害のある子どもの発達を保障するために、指導員として保護者として何ができるかを、近藤先生と一緒に考えます。



15. 発達障害・「ちょっと気になる子」を理解するために

※カリキュラム 2～3年次 2- (2) 課

【講師】藤平俊幸（埼玉県発達障害者センター「まほろば」センター長）
落ち着きがない、ひとの話が聞けない、言葉の前に手が出てしまう。けれど、実力が無いわけではない。「ちょっと気になる子」と言われる子どもたち。その中には「発達障害」のある子どもが存在することが今日では分かってきました。そうした子どもたちをどう理解し、支援していくかを、藤平先生と一緒に考えましょう。

よいよい学童保育の条件・施策をつくる

(一) “学童保育運動力”をパワーアップしたい方にお勧めです

16. “父母会力”をつける・高める

～ “みんなでつくる、みんなの父母会”ってどうしたらできるの？～

※カリキュラム 2～3年次 1- (2) 課

【世話人・助言】木村徹（県連協事務局長） 村田美佐子（飯能市指導員）
学童保育をよりよくするために父母会・保護者会はあります。「わずらわしい・集まらない・役員が決まらない」という声も聞かれます。「父母会のなかで子育ての悩みが共有できた」「行事が楽しい」「アフターはもっと楽しい」という声も聞かれます。父母会をみんなのもの、魅力あるものにするにはどうしたらよいかを交流します。また、父母会活動のなかで指導員が果たす役割についても考えます。

※参考図書 「父母会ハンドブック」（全国学童保育連絡協議会）

17. 指導員のチームワーク・職場づくり

～ 子どもの話を軸にした職場をどうつくるか？ ～

※カリキュラム 2～3年次 5- (1) (2) (3) 課

【講師】永松範子（横須賀市岩戸大矢部学童保育所指導員）

指導員が働き続ける上で、雇用と労働条件の不安定さは不可欠です。同時に、仕事を軸に励まし合える職場の中のチームワークづくりがカナメとなります。指導員同士の関係の難しさが続ける上でのネックの1つとなっています。指導員の関係・チームワークをどうつくっていくか？ベテラン指導員の永松さんと一緒に考えましょう。

18. 新たな子育て制度で学童保育はどうなる？どうする？

～ 「子ども・子育て支援新制度」分科会～

※カリキュラム 2～3年次 1- (1) 課

【講師】千葉智生（全国学童保育連絡協議会事務局次長）

2015度から「子ども・子育て支援新制度」がスタートしました。市町村は、国から示された施設と運営の最低基準をもとに条例で基準を設け、5か年の「事業計画」を策定しています。指導員には、公的資格制度が定められ、「放課後児童クラブ運営指針」にもとづいて職務を進めることとなり、「処遇改善等事業」も施策化されました。学童保育はいまどういう位置にあるか？制度・施策の改善の展望をどうつくっていくかを考えます。

※参考図書「解説と資料・新制度で大きく変わる学童保育」（全国学童保育連絡協議会）

19. 「放課後児童クラブ運営指針」を学ぼう

【講師】真田 祐（大妻女子大学非常勤講師）

「子ども・子育て支援新制度」によって、指導員問題は大きく変わりつつあります。その1つは、「放課後児童クラブ運営指針」の策定です。これは、指導員にとっての「保育指針」とであると同時に、事業を進める者にとっては「運営指針」の役割を持つものです。指導員、事業者のみならず市町村関係者もが身につけておく必要があります。「運営指針」策定の経過、意義、活用の仕方を学びます。